

第 50 回 BMS コンファレンス(2024) 参加報告

共通機器部門 共通利用機器管理班 山口信雄

1. はじめに (目的等)

今年度は BMS コンファレンス第 50 回を記念してシンポジウム形式 (対面) で行われた。これまでの 50 年の歩みを振り返るとともに、今後の生命科学の領域での質量分析研究の展開について発表や討論がなされた。

2. 期間・場所

期間 : 令和 6 年 9 月 18~20 日

場所 : Shimadzu Tokyo Innovation Plaza (神奈川県川崎市)

3. 参加者等

約 130 名程度

4. 研修内容

50 年の質量分析分野における発展を振り返るとともに、ノーベル賞受賞者の田中耕一博士による記念講演や「技術融合が拓く MS イメージングと薬物動態の新地平」「一細胞分析」「水・環境・食の質量分析最前線」「分析の高度化とビッグデータ」「ニューモダリティを対象とする医薬品開発」についての発表および討論があった。

5. まとめと感想

今回は合宿形式ではなく、夜遅くまでのスケジュールでもなかったため、非常に気楽に参加できた。講演の内容は例年通りに濃密なものであり、自身の仕事に直結する内容も多かった。特に近年組み立てられた PFAS 関連の標準的な前処理・測定・解析法とこれからの展望、貝毒を安全に測定するための新たな標準物質の開発情報などは、出張から帰り次第関連の教員に還元することができた。

さらに本学東広島キャンパスで更新を目論んでいる装置の新型機がデモ展示しており、バージョンアップされている部分を直接確認できた。また装置台もロータリーポンプ格納型となっていて、測定室内でのディスカッションを妨げる騒音がかなり軽減できることが見込まれた。

質量分析技術者及びメーカーとの意見交換も合宿形式時よりは時間が短いながらもそれなりに確保でき、他大学等で同じような悩みをもつ方々と話し合うことができた。